

EM講座 (EMギフト パスポート北上店での資料)

●EMせっけん編

作成編

78 せっけん作りにEMを活用するとなぜいいのか？

→ 鹸化反応を安定させて廃油せっけんの問題といわれていた未鹸化のトラブルを解決できるため。未鹸化だと油分の残った強アルカリ性のせっけんになり、臭気もあり洗浄力も低く、水質汚染を引き起こす。

79 セラミックスパウダーをいれるのはなぜ？

→ セラミックスパウダーは鹸化反応を促進させ、さらに油の酸化を防ぎ、せっけんになることで少量ずつ溶け出して洗浄力の向上にも効果的。また、使用量の調整により密度の高いしっかりしたせっけんになる。

80 作るときに熱くなるけどEMは死なないの？

→ 全てが死ぬわけではない。また、EMを添加するのは微生物を入れるというより発酵生成物を添加する目的が大きいので熱くても問題ない。

81 アルカリ性なのにEMは死なないの？

→ 前問参照。実際にEMせっけんを分析するとアルカリ性では生きないはずの乳酸菌等も検出される。抗酸化力が高い状況では高温、強酸、強アルカリなどの環境でも微生物が生存できる。

82 米のとぎ汁EM発酵液の上澄みだけ使うのはなぜ？

→ 沈殿部分が入ると不純物過剰になってせっけんがやわらかくなってしまうため。

83 油はどんなのが適している？

→ 程よく使用され、過度に酸化が進んでいないものが良い。また、固形分は濾してから使用する。一般に色が濃い油は早く固まり(油くささが残ることもある)、色の薄い油は時間がかかる(良く攪拌しないと分離することがある)が、色だけでは判断できない。実際には20~30分の攪拌時間を目安にブレンドして使用することもある。また、油の種類(サラダ油、オリーブ油など)によっても固まり方、泡立ち等に差が出るが廃油を使用する以上は仕方ない。

84 暖かい時期に作るのはどうして？

→ 鹸化反応は高温で促進されるから。低温期には攪拌、乾燥時の温度に気を配る必要がある。

85 いつまで混ぜてもとろとろしません。考えられる原因は？

→ 新しい油や油の種類によっては数十分では固まりはじめないものもある。攪拌中に熱が冷めた場合には加温したり、根気強く混ぜる必要がある。

86 どれくらいの固さで切ればいいのか？

→パックを外から押して、のしもちくらいの固さがよい。早すぎると切りにくく、遅いと割れてしまいやすい。

87 切った後はどうすればいい？

→暖かい乾燥した場所に並べておく。湿度が高いと吸湿して水滴がついたりする。

88 いつから使えるの？

→原則として作ってから1ヶ月。

89 表面が白くなったけど大丈夫？

→表面の白い粉はアルカリ分と空気中の炭酸ガスが反応して結晶化したもの。たくさんでる場合には余剰アルカリの可能性もあるが、少しなら問題ない。

90 牛乳パックに移した後で分離してしまいました。考えられる原因は？

→攪拌中の鹼化不足(油、気温、攪拌不足等が原因)により分離することがある。時間ではなくせっけんの状況を見てから容器に移した方がよい。

使用編

91 体に使って大丈夫？

→EMをいれれば全て大丈夫というわけではないが、余剰アルカリの心配がなく油臭くなければ体に使っても問題ない。ただし、商品の表示になるといろいろな法律が関わってくる。

92 洗濯機での使い方は？

→あらかじめ粉石鹼、液状石鹼にするか、固形のまま洗濯機でまわしても良い。また、固形のまま部分洗いには活用しやすい。

その他

93 せっけんと合成洗剤の違いは？

→どちらも界面活性力により汚れを落とすが、合成洗剤は生物毒性が強く、難分解性であるため生態系に悪影響を及ぼす。また、肌の皮脂を必要以上にとってしまうため人体にも良くない。